「お薬教育推進協議会」　第3回講演会　議事録

　　　　　　　日時；2021年11月13日（土）18：00～20：00 　　ZOOMにてリモート開催　　参加者50名

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　進行担当：福田　　議事録作成：城田

**【講演１】　小学校における『薬物乱用防止教育』‐DVDを活用して‐**敬略称

**演者：東村山市学校薬剤師会　坂井　紀子**

＊東京都福祉保健局作成（多摩小平保健所でも貸出可能）の、ゲーム形式になっているDVDを使いながら子供たちに語りかけ、オリジナルのワークシートを使って一緒に考え、答えていくというゲーム感覚の授業を紹介

＊DVDの中では、「大麻モンスター」と「勇者STOP」というキャラクターが登場する。クイズは、ワークシートを使いながら、薬物は人のこころや体に影響を与える事を説明し、依存症や社会悪について説明。

＊ネット上では「大麻は安全」などのまちがった情報もあり、信用しない事、困ったときには一人で悩まず相談しよう

＊大麻クッキー、チョコ等が海外で売られている現状もあり、まちがえて買ってしまわないよう注意

**【講演２】　小・中・高等学校における『薬物乱用防止教育』**

**―『医薬品の適正使用』と関連付けて―　　　　　　　　　　　　演者：東久留米市学校薬剤師会**

**おくすり教育推進協議会 企画運営委員**

**中島　正登**

＊薬物乱用防止教育の話の前段として、まず薬の適正使用について説明し、逸脱が乱用にもなる事の説明

＊海外における大麻合法化の話題にふれ、大麻の危険性を誤認しないために国の管理のもとにあることを説明。

＊薬物乱用について、幻覚やフラッシュバック、依存性について例示し説明

＊安易なネット販売には注意し、薬物の誘いには勇気を出して断ろう、困ったときには相談する習慣を持つことが大事

＊粗雑品の多い危険ドラッグは、毒性にばらつきがあり危険性も高い事

＊A10神経について、薬物によるA10神経の作動により、努力なしに達成感の感情を得る仕組みを説明

＊小中高で、内容的に学年に見合ったスライド作りにしている、講演参考教材について紹介

**【トピックス】　「大麻関連の話題について」**

**演者：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所**

**おくすり教育推進協議会 企画運営委員　　　　舩田正彦**

1. **大麻リキッド問題**

大阪で高校生が大麻リキッド（大麻濃縮製品：THC80％）所持で捕まった事件あり。電子タバコの器具を利用し吸引することで乱用される。SNSで売人から入手した高校生はマリファナを使わなかった理由を、「煙が出ない、周囲にわかりにくいから」と述べており、ますます大問題。THC濃度が高いので依存に陥るリスクは当然高く警戒が必要

1. **大麻と飲酒の関係**

米国CDCで大麻使用と飲酒の関連性が報告された。大麻使用者について、飲酒なしでは9.9％に対し、大量飲酒経験者は34.4％であり、直近の大麻使用に関して、大量飲酒の傾向が示された。アルコールに関して、米国での飲酒規制はわが国よりも厳しい。そういった国でこの傾向があるとすれば、わが国は一層の警戒が必要。喫煙、運転との関連性にも注視が必要

**加藤先生総括；**他の人の教育活動を見るのはとても参考になると思います。活動啓発教材パック商品等は、編集ができませんが、スタンダードとして勉強材料として使い、養護教諭と協働しオリジナリティーを入れて教育活動の継続をしていくために参考として使うとよい。学校サイドからも薬剤師との協働で、スキルアップとなるとの報告もある。薬物乱用頭痛、スマートドラッグ、カフェインの摂取についても、薬剤師が提案する保健だよりサンプル等を活用して、よりきめの細かい教育指導を

**質疑応答、協議多数あり**　次回第4回講演会予告：　　3/12予定　アンケートのお願いし閉会